

SJクイズ

[問題編]

Q1 平成23年の交通事故件数を道路形状別・地形別にみると、最も多いのは次のうちどれでしょう？

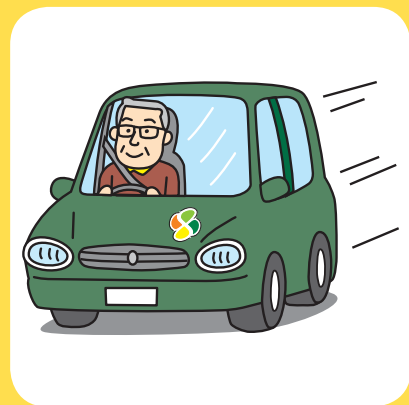
- ①市街地の単路
- ②市街地の交差点
- ③非市街地の単路
- ④非市街地の交差点

Q2 平成23年の交通死亡事故件数を事故類型別にみると、最も多いのは次のうちどれでしょう？

- ①人対車両事故の横断中
- ②車両相互事故の出会い頭衝突
- ③車両相互事故の正面衝突
- ④車両単独事故の工作物衝突

Q3 平成23年の75歳以上の免許保有者数は10年前(平成13年)の2.43倍になっていますが、75歳以上の高齢運転者による交通事故件数は10年前と比べ何倍となっているでしょう？

- ①約1.5倍
- ②約2倍
- ③約2.5倍
- ④約3倍



【使用上の注意】

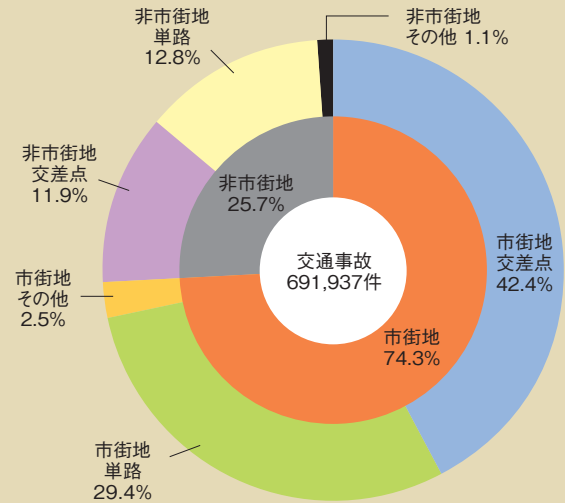
●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736

Q1 解答 ②市街地の交差点

<解説>

平成 23 年の交通事故件数 (69 万 1937 件) を地形別・道路形状別にみると、最も多いのは「市街地の交差点 (交差点付近含む)」で 42.4% を占めており、次いで「市街地の単路 (29.4%)」、「非市街地の単路 (12.8%)」、「非市街地の交差点 (11.9%)」となっている。

また、「市街地の交差点」での事故件数を信号機の有無別にみると、信号機のある交差点が 40.2%、信号機のない交差点が 59.8% である。ドライバー・ライダーは、信号機のない交差点を通行する時は、より注意が必要だ。さらに、信号の有無にかかわらず、市街地の交差点を通行する時は見える範囲はもちろん、死角に潜む危険も予測しておく必要がある。



●平成 23 年の地形別・道路形状別交通事故件数 (平成 23 年・構成率) ※交差点に交差点付近を含む

Q2 解答 ①人対車両事故の横断中

<解説>

平成 23 年の交通死亡事故件数 4481 件 (死者数 4612 人) を事故類型別にみると、最も多いのは「人対車両事故の横断中」で 26.0% を占めており、次いで「車両相互事故の出会い頭衝突 (15.0%)」、「車両単独事故の工作物衝突 (13.5%)」、「車両相互事故の正面衝突 (10.0%)」となっている。

車両と横断中の歩行者との事故は死亡事故につながりやすい。こうした事故を防止するために、ドライバー・ライダーは横断歩道のある場所では必ず歩行者保護の意識を持つことが大切である。また、横断歩道以外を渡る歩行者や、赤信号で横断する歩行者がいることにも注意して、スピードを控えた運転を心がけてほしい。

また、歩行者は道路を横断する時、できるだけ横断歩道のある場所を利用し、渡る前には必ず左右の安全を確認してほしい。

Q3 解答 ②約 2 倍

<解説>

75 歳以上の高齢運転者 (原付以上・第 1 当事者) による交通事故件数は平成 13 年の 1 万 7075 件に対し、平成 23 年は 3 万 4178 件と 2.00 倍になっている。この背景には 75 歳以上の運転免許保有者数が 10 年間で 2.43 倍に増加したことがある。65 歳以上の高齢運転者でも、交通事故件数は 10 年前の 1.33 倍 (免許保有者数は 1.72 倍) である。

高齢運転者は加齢による身体機能の変化を自覚し、そうした変化を補うことを意識して運転する必要がある。また、70 歳以上の高齢運転者は運転するクルマに高齢運転者マークを表示するように努めてほしい。他の運転者はこのマークをつけたクルマに対して思いやりのある運転をしなければならない。

※文中のデータ、グラフの出典は、公益財団法人 交通事故総合分析センター「交通事故統計 平成 23 年版」

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業 (株) 安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736